

<b>1. プログラム名称</b>
新潟県立十日町病院総合診療専門研修プログラム
<b>2. 専攻医定員</b>
<p>1年あたり（ 2 ）名 （×研修期間年数＝総定員 6 名）</p> <p>基幹施設および連携施設が他プログラムの連携施設・基幹施設にもなる（いわゆる相乗りプログラムがある）場合は、＜整備基準 27＞の「専攻医受入数についての基準」を参照した上で研修に支障のない人数にとどめること。</p>
<b>3. プログラムの期間</b>
（ 3 ）年間
<b>4. 概要</b>
<p><b>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</b></p> <p>新潟県は中山間地、豪雪地を抱え、高齢化・過疎が進み医療需要が増大する中、研修の中心となる県立病院群は広い県土をネットワークで支えている。救命救急センター・高度医療を主とする基幹病院（県立中央病院、県立新発田病院）、地域医療を中心とする地域中核病院（県立十日町病院、県立吉田病院、県立坂町病院）、へき地・過疎地に寄り添う地域病院（県立妙高病院、県立津川病院、県立柿崎病院、県立松代病院）と、多彩な医療内容で多岐にわたる県民ニーズに応えている。プログラムの中心は総合診療専門研修Ⅱ、内科研修、小児科研修を担当する県立十日町病院で、総合診療専門研修Ⅰは地域4病院で研修し、救急は救命センターを持つ基幹県立2病院に新潟大学医歯学総合病院と新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院が加わった。全県下に広がる多様な病院群が協働し、研修環境を整備し、希望に沿った3年間の後期研修プログラムを提供する。高齢化、過疎化が進み、豪雪・中山間地に医療資源の少ない中、無医地区・へき地を抱える地域医療など、日本の将来状況を先取り体験できる本プログラムは、総合診療専門研修にとって理想的な環境であると言える。長年臨床を担当している指導医により、専門医取得に必要な基本的医療を学ぶことができる。</p>
<p><b>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</b></p> <p>新潟県立病院群（平成27年5月まで15病院）は新潟大学医学部と連携しながら、都会型から地域医療や特殊医療まで広い県土の様々な医療ニーズにネットワークを活用して応えてきた。このネットワークと経験を利用して、高度専門医療から慢性期医療、予防医療まで多彩な医療内容を理解し、行政や病院団体や医師会や患者団体など様々な連携を体験し、全人的に支え、社会的に活動できる医師を育成するプログラムである。</p> <p>研修目標【①一般的な疾患・病態を問題解決型思考で考え、適切なマネジメントができる②地域医療や高度専門医療を体験理解し、救急外来から専門外来や予防医療の現場で診療ができる③患者中心の診療や家族志向型思考によって在宅医療・ケアまで包括的、継続的、効率的な指導ができる④地域の保健・医療・福祉システムを活用し、健康管理・予防医療の専門家として、高い倫理性を持って連携できる】に沿った研修指導を行う。</p>
<p><b>C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会</b></p> <p>（例）定期的なTV会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録（ポートフォリオ）勉強会や作成指導等</p> <p>毎週1回開催する入院症例検討会、外来症例検討は適宜診療録レビューとビデオレビューで評価。技能領域においては習熟度に応じて個別に指導を提供。日本プライマリケア連合学会の関連する学術集会への参加・症例発表。連携施設においても、定期的な症例検討会、指導医とのポートフォリオ勉強会を予定している。</p>

D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町
	領域	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ
2年目	施設名	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町	十日町
	領域	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科
3年目	施設名	十日町	十日町	十日町	松代	松代	松代	松代	松代	松代	魚沼基幹	魚沼基幹	魚沼基幹
	領域	小児科	小児科	小児科	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	救急	救急	救急

特記事項 ( )

※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (6-12)カ月	総合診療専門研修Ⅱ (6-12)カ月	
領域別 研修	内科 (12)カ月	小児科 (3)カ月	救急科 (3)カ月

※ローテーションする施設によって研修期間が異なる場合(例えば、総合診療専門研修ⅠがA診療所なら6ヶ月、B診療所なら9ヶ月など)、これらの表はコピー&ペーストして複数作成してください。

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

※整備基準にある「平成30年度からの3年間に専門研修が開始されるプログラムについては、専門研修施設群の構成についての例外を日本専門医機構において諸事情を考慮して認めることがある。」との規定を踏まえ、3年間の研修プログラムにおいても、最大6か月間の選択研修が認められます。ただし、その場合でも、各研修科の研修期間の要件を満たすことが必要です。

※「総診Ⅰ」と「総診Ⅱ」を同時に研修することはできません。また、原則として異なる医療機関での研修を実施する必要があります。

※原則として、都道府県の定めるへき地に専門研修基幹施設が所在するプログラム、あるいは研修期間中に2年以上のへき地での研修を必須にしているプログラムにおいて、ブロック制で実施できない合理的な理由がある場合に限り、小児科・救急科の研修をカリキュラム制で実施することが認められます。該当する場合は、特記事項に詳細を記入してください。

**5. 準備が必要な研修項目****地域での健康増進活動**

- 実施予定場所 ( 柿崎・松代・妙高・津川・津南・十日町病院 ) )
- 実施予定の活動 ( 糖尿病教室、禁煙指導、ナイトスクールなど参加型の教室を予定 ) )
- 実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか
- ( 総合診療 I・II 中に予定 ) )

**教育 (学生、研修医、専門職に対するもの)**

- 実施予定場所 ( 全施設 ) )
- 実施予定の活動 ( 新潟大学・自治医大学生に対して地域医療教育など。他職種・研修医に対して講義 ) )
- 実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか
- ( 全期間中、適宜施行 ) )

**研究**

- 実施予定場所 ( 新潟大学医科総合診療部 ) )
- 実施予定の活動 ( 疫学研究 ) )
- 実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか
- ( 領域別研修その他で新潟大学医科総合診療部を選択した場合。希望があれば総診 I・II 中に臨床研究を検討。 ) )

**6. 専攻医の評価方法 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))**

※形成的評価と総括的評価を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

**形成的評価**

- 研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを定期的実施する (頻度: 月 1 回 ) )
- 経験省察研修録 (ポートフォリオ) 作成の支援を通じた指導を行う (頻度: 振り返りセッション時適宜 ) )
- 作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) の発表会を行う (頻度: 年 1 回 参加者の範囲: 多職種 (連携施設も) ) )
- 実際の業務に基づいた評価 (Workplace-based assessment) を定期的実施する (頻度: 月 1-2 回 ) )
- 多職種による 360 度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する
- 年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する
- ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築する
- メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する

**総括的評価**

- 総合診療専門研修 I・II の研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。
- 内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム (Web 版研修手帳) による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。
- 3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する
- 3ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する
- 以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する
  - (1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修 I および II 各 6 ヶ月以上・合計 18 ヶ月以上、内科研修 12 ヶ月以上、小児科研修 3 ヶ月以上、救急科研修 3 ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている
  - (2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している
  - (3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している
 なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による 360 度評価 (コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範) の結果も重視する

**研修修了認定の方法（総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）**

修了判定会議のメンバー

研修プログラム管理委員会と同一

その他（ ）

修了判定会議の時期（ 研修3年目の2-3月頃に予定 ）

**7. プログラムの質の向上・維持の方法**

**研修プログラム管理委員会**

委員会の開催場所（ 新潟県立十日町病院 ）

委員会の開催時期（ 毎年4月 他に適宜臨時開催を検討 ）

**専攻医からの個々の指導医に対する評価**

評価の時期（ 各領域別研修終了時 ）

評価の頻度（ 領域別研修終了毎 ）

評価結果の利用法（ 研修プログラム管理委員会で共有・検討 ）

**研修プログラムに対する評価**

評価の時期（ 毎年3月 ）

評価の頻度（ 年1回 ）

評価結果の利用法（ 基幹施設内・各連携施設に周知 ）

**8. 専門研修施設群**

基幹施設の施設要件（各項目を満たすとき、を塗りつぶす（のように））

総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。

総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。

大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設である。

研修施設群全体の要件。

総合診療専門研修Ⅰとして、のべ外来患者数 400名以上/月、のべ訪問診療件数 20件以上/月である。

総合診療専門研修Ⅱとして、のべ外来患者数 200名/月以上、入院患者総数 20名以上/月である。

小児科研修として、のべ外来患者数 400名以上/月である。

救急科研修として、救急による搬送等の件数が1000件以上/年である。

地域医療・地域連携への対応

へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が1年以上である。

具体的に記載：

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）

基幹施設がへき地※に所在している。

へき地※での研修期間が2年以上である。

具体的に記載：

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）

※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm)

[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000456268.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf)

**9. 基幹施設**

研修施設名	新潟県立十日町病院
所在地	住所 〒948-0065 新潟県十日町市高田町三丁目南 32-9 電話 025-757-5566 FAX 025-752-3955 E-mail

プログラム統括責任者氏名	齋藤 悠	指導医登録番号	
プログラム統括責任者 部署・役職	内科部長		
事務担当者氏名	齋藤 悠		
連絡担当者連絡先	住所 〒948-0065 新潟県十日町市高田町三丁目南 32-9 電話 025-757-5566 FAX 025-752-3955 E-mail u521220@yahoo.co.jp		
基幹施設のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅰの施設 <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅱの施設 <input type="checkbox"/> 大学病院		
基幹施設の所在地	二次医療圏名 ( 魚沼医療圏 ) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ		
施設要件 (各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■総合診療以外の 18 基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない (プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない)</li> <li>■本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない</li> <li>■プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が十分なされている</li> <li>■専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境 (例えば TV 会議システム等) が整備されている</li> <li>■プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている</li> <li>■研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている <ul style="list-style-type: none"> <li>※研修用の図書冊数 ( 約 300 冊 )</li> <li>※研修用の雑誌冊数 ( 約 30 誌 )</li> <li>※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称 ( 医中誌検索・up to date )</li> <li>※インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>■LAN 接続のある端末</li> <li><input type="checkbox"/>ワイヤレス</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>■自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている</li> </ul>			
具体例 ( 新潟大学、魚沼基幹病院との臨床研修に参加 )			

10. 連携施設	
連携施設名	新潟県立柿崎病院
所在地	住所 〒949-3216 上越市柿崎区柿崎 6412-1 電話 025-536-3131 FAX 025-536-3136 E-mail keieika@kakizaki-hp.niigata.jp
連携施設担当者氏名	太田 求磨
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	田辺 茂男
連絡担当者連絡先	住所 〒949-3216 上越市柿崎区柿崎 6412-1 電話 025-536-3131 FAX 025-536-3136 E-mail keieika@kakizaki-hp.niigata.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 ( 上越医療圏 ) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※連携施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー＆ペーストして列挙すること

10. 連携施設-5	
連携施設名	新潟県立松代病院
所在地	住所 〒 942 - 1526 十日町市松代 3 5 9 2 番地 2 電話 025 - 597 - 2100 FAX 025 - 597 - 3909 E-mail matsudai.hospital2@pref.niigata.lg.jp
連携施設担当者氏名	鈴木 和夫
連携施設担当者 部署・役職	総合診療科・内科・院長
事務担当者氏名	尾身 博樹
連絡担当者連絡先	住所 〒 942 - 1526 十日町市松代 3 5 9 2 番地 2 電話 025 - 597 - 2100 FAX 025 - 597 - 3909 E-mail matsudai.hospital2@pref.niigata.lg.jp
連携施設の所在地 ※不明でしたら空白で構いません。	二次医療圏名（魚沼） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟県立妙高病院
所在地	住所 〒949-2106 妙高市田口 147-1 電話 0255-86-2003 FAX 0255-86-2065 E-mail
連携施設担当者氏名	岸本 秀文
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	岸本 秀文
連絡担当者連絡先	住所 〒949-2106 妙高市田口 147-1 電話 0255-86-2003 FAX 0255-86-2065 E-mail kisshy@myoukou-hsp.gr.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（上越医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟県立津川病院
所在地	住所 〒959-4497 東蒲原郡阿賀町津川 200 番地 電話 0254-92-3311 FAX 0254-92-4964 E-mail <a href="mailto:tug-keiei@sage.ocn.ne.jp">tug-keiei@sage.ocn.ne.jp</a>
連携施設担当者氏名	原 勝人
連携施設担当者 部署・役職	病院長
事務担当者氏名	原 勝人
連絡担当者連絡先	住所 〒959-4497 東蒲原郡阿賀町津川 200 電話 0254-92-3311 FAX 0254-92-4964 E-mail <a href="mailto:k-hara@msh.biglobe.ne.jp">k-hara@msh.biglobe.ne.jp</a>
連携施設の所在地	二次医療圏名（新潟医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	津南町立津南病院
所在地	住所 〒949-8201 中魚沼郡津南町大字下船渡丁 2682 電話 025-765-3161 FAX 025-765-3304 E-mail tsunan-hp@town.tsunan.niigata.jp
連携施設担当者氏名	林 裕作
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	根津 和博
連絡担当者連絡先	住所 〒949-8201 中魚沼郡津南町大字下船渡丁 2682 電話 025-765-3161 FAX 025-765-3304 E-mail netsu.kazuhiro@town.tsunan.niigata.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 魚沼医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟県立坂町病院
所在地	住所 〒959-3193 村上市下鍛冶屋 589 電話 0254-62-3111 FAX 0254-62-5431 E-mail sakamachi-hospital@ml.murakami.ne.jp
連携施設担当者氏名	本間 則行
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	阿部 みゆき
連絡担当者連絡先	住所 〒959-3193 村上市下鍛冶屋 589 電話 0254-62-3111 FAX 0254-62-5431 E-mail sakamachi-hospital@ml.murakami.ne.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 下越医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟県立新発田病院
所在地	住所 〒957-8588 新発田市本町 1-2-8 電話 0254-22-3121 FAX E-mail
連携施設担当者氏名	川合 弘一
連携施設担当者 部署・役職	内科部長
事務担当者氏名	川合 弘一
連絡担当者連絡先	住所 〒957-8588 新発田市本町 1-2-8 電話 0254-22-3121 FAX E-mail kawai@sbthp.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 下越医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟県立中央病院
所在地	住所 〒943-0192 新潟県上越市新南町 205 電話 025-522-7711 FAX 025-521-3720 E-mail shomu@cent-hosp.pref.niigata.jp
連携施設担当者氏名	長谷川正樹
連携施設担当者 部署・役職	病院長
事務担当者氏名	主事 中村 翼
連絡担当者連絡先	住所 〒943-0192 新潟県上越市新南町 205 電話 025-522-7711 FAX 025-521-3720 E-mail shomu@cent-hosp.pref.niigata.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 上越診療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →□はい ■いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟県立吉田病院
所在地	住所 〒959-0242 燕市吉田大保町 32-14 電話 0256-92-5111 FAX 0256-92-2610 E-mail
連携施設担当者氏名	松野 正知
連携施設担当者 部署・役職	副院長
事務担当者氏名	松野 正知
連絡担当者連絡先	住所 〒959-0242 燕市吉田大保町 32-14 電話 0256-92-5111 FAX 0256-92-2610 E-mail matsuno@yoshida-hosp.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 県央医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →□はい ■いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟大学医歯学総合病院
所在地	住所 〒951-8520 新潟市中央区旭町通 1 番町 754 電話 025-223-6161 FAX 025-227-0886 E-mail htaka@med.niigata-u.ac.jp
連携施設担当者氏名	長谷川 隆志
連携施設担当者 部署・役職	医科総合診療部 准教授
事務担当者氏名	佐藤 美樹
連絡担当者連絡先	住所 〒951-8520 新潟市中央区旭町通 1 番町 754 電話 025-223-6161 FAX 025-227-0886 E-mail nar@adm.niigata-u.ac.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 新潟医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →□はい ■いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院
所在地	住所 〒949-7302 南魚沼市浦佐 4132 電話 025-777-3200 FAX 025-777-2811 E-mail: m-nakajima2@ncmi.or.jp
連携施設担当者氏名	山口 征吾
連携施設担当者 部署・役職	地域救命救急センター ・ センター長
事務担当者氏名	中島 勝
連絡担当者連絡先	住所 〒949-7302 南魚沼市浦佐 4132 電話 025-777-3200 FAX 025-777-2811 E-mail: m-nakajima2@ncmi.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 ( 魚沼医療圏 ) 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →□はい ■いいえ

## 総合診療専門研修 I

### 総合診療専門研修 I の施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
15	0312505	■へき地・離島 □被災地	新潟県立柿崎病院	□基幹 ■連携
15	1010579	■へき地・離島 □被災地	新潟県立松代病院	□基幹 ■連携
15	1610543	■へき地・離島 □被災地	新潟県立妙高病院	□基幹 ■連携
15	5410130	■へき地・離島 □被災地	新潟県立津川病院	□基幹 ■連携
15	5910071	■へき地・離島 □被災地	津南町立津南病院	□基幹 ■連携

### 総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	新潟県立柿崎病院		
診療科名	( 総合診療科 ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	□診療所 ■病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (55 ) 床 診療科病床数 ( 40 ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6~12 ) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □ 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ( )		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ( )		
常勤指導医氏名 1	太田 求磨	指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	( )





<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する                  具体的な状況（唯一の医療機関であり家族構成を把握し医療・ケアを実践している。）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する                  具体的な内容と方法（学校や住民向けに禁煙指導を広く行い、自殺予防や健康教育など地域と連携した保健指導を行っている。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している                  それぞれの概ねの頻度（毎水・木・金の午後に訪問診療、毎月・水の半日に訪問看護の枠を設定し実践している。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400 名以上／月                  □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している                  具体的な体制と方略（ )</p>
<p>■のべ訪問診療数 20 件以上／月                  □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している                  具体的な体制と方略（ )</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会                  （月・木曜日朝ケースカンファレンス・カルテチェック。振り返りでのショートレクチャー )</p>
<p>他の施設で行う教育・研修機会                  （県立十日町病院での症例検討会参加。医師会主催の各種講演会への参加 )</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 ( 3 )                  プログラム名（新潟大学医歯学総合病院総合診療専門研修プログラム )                  プログラム名（上越妙高総合診療専門研修プログラム )                  プログラム名（長岡赤十字病院総合診療専門研修プログラム )</p>

総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	新潟県立妙高病院		
診療科名	( 内科 ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	□診療所 ■病院 施設が病院のとき → 病院病床数 ( 56 ) 床 診療科病床数 ( 56 ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6~12 ) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 <input checked="" type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ( )		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ( )		
常勤指導医氏名 1	岸本秀文	指導医登録番号	(2013-765 )
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	( )
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど			

<p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>
<p><b>施設要件</b></p> <p>後期高齢者診療</p> <p>■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている</p> <p>学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）</p> <p>■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている</p> <p>□学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する</p> <p>□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する</p> <p>具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（ ）</p> <p>□学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない</p> <p>経験を補完できない理由（ ）</p> <p>学童期以下の患者の診療を経験するための工夫</p> <p>（ ）</p>
<p>■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。</p> <p>具体的な体制と方略（旧妙高高原町唯一の医療機関、時間外も救急外来担当看護師・日当直医が相談・診療にあたり、入院依頼もすべて受入れている。）</p>
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。</p> <p>具体的な体制と方略（旧妙高高原町住民を家族として把握しており、定期外来は予約制、訪問看護師・MSW・保健師・ケアマネ・施設職員と継続的な情報交換を行い、主治医として訪問指示書など作成する。）</p>
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。</p> <p>具体的な体制と方略（地域の医療機関は他になく、乳児から高齢者まで、救急から慢性疾患管理、訪問診療や在宅看取りはもちろん、学校での禁煙教育など地域健康啓発活動を行っている。）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。</p> <p>具体的な体制と方略（基幹病院との連携・医師派遣を受け、遠隔診療体制もある。在宅療養、地域の介護・福祉施設と連携契約を結び、定期的に情報交換をして診療する体制がある。）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。</p> <p>具体的な状況（唯一の医療機関の利点で家族構成を把握した医療・ケアを実践している。地域のかかりつけ医療機関である。）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。</p> <p>具体的な内容と方法（学校や住民向けに禁煙指導を広く行い、検診受診勧奨や自殺予防や健康教育など自治体と連携した保健指導を行っている。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。</p> <p>それぞれの概ねの頻度（定期訪問診療を行い、急変時の訪問や 24 時間受け入れ体制や在宅看取りも行っている。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400 名以上／月</p> <p>□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p> <p>具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■のべ訪問診療数 20 件以上／月</p> <p>□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p> <p>具体的な体制と方略（ ）</p>
<p><b>研修中に定期的に行う教育</b></p> <p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （火曜から金曜日の 8 時 10 分から 9 時まで病棟回診、毎週月曜 15 時 30 分から 16 時 30 分の症例カンファレンス、毎週水曜日 17 時 30 分からの院内勉強会）</p> <p>他の施設で行う教育・研修機会 （月 2 回の新潟県立中央病院での院内感染対策研修会）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 5 ）</p> <p>プログラム名（上越総合病院 ）</p> <p>プログラム名（新潟県立中央病院 ）</p> <p>プログラム名（長岡赤十字病院 ）</p> <p>プログラム名（新潟大学総合診療科 ）</p> <p>プログラム名（国立病院機構新潟病院 ）</p>

## 総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	新潟県立津川病院		
診療科名	( 内科 ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 ( 67 床 診療科病床数 ( 67 床 ) )		
総合診療専門研修 I における研修期間	( 6~12 ) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ( )		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ( )		
常勤指導医氏名 1	原 勝人	指導医登録番号	( 2015-0055 )
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<b>研修の内容</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
<b>施設要件</b>			
後期高齢者診療			
<input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において患者の 10%以上が後期高齢者である			
学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ)			
<input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている			
<input checked="" type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ( )			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 ( )			
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ( )			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (入院診療・退院支援、外来診療を継続的に診療担当する。外来診療は予約制をとり、病状悪化時は予約外の診療も行い継続性を確保している。訪問診療患者では、主治医意見書作成や多職種との打ち合わせなど、治療方針決定に関わる場面には主治医が継続して中心的役割を果たしている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (入院診療・退院支援、外来診療を継続的に診療担当する。外来診療は予約制をとり、病状悪化時は予約外の診療も行い継続性を確保している。訪問診療患者では、主治医意見書作成や多職種との打ち合わせなど、治療方針決定に関わる場面には主治医が継続して中心的役割を果たしている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (地域に唯一の入院病床を持ち、幅広い年齢層に対して、急性期・慢性期の外来診療および入院診療、予防医学的アプローチ、訪問診療、緩和ケア等を提供できる患者層と診療体制をとっている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (新潟市の三次医療機関とは顔の見える関係が構築されており、紹介・逆紹介は円滑に行われている。ケアマネや地域の介護施設、福祉施設と定期的な情報交換や症例相談の機会を確保している。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (高齢・過疎地であり、職員は患者の家族構成について情報共有できている。家族図も用い、家族単位でかかりつけ医療機関として利用できる環境がある。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。			

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

<p>具体的な内容と方法（研修中に予防接種、学校健診、職場検診などに参加するほか、地域の診療所に出向いての診療を、研修期間を通じて実践させる機会を設ける。学校での禁煙教室を行い、医療啓発活動を行う。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度（多数の訪問診療を継続的に行っている。訪問看護に加えて診療時間内、外を含め病状悪化時などの臨時往診も行っている。緩和ケアにも取り組み、患者や家族の希望に応じて在宅看取りを支援している。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ )</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ )</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （平日毎朝カンファ、すいすい勉強会週1回、総回診週1回、外来検討会月1回、他に多職種カンファなど適宜開催。） 他の施設で行う教育・研修機会 （テレビシステムを用いた大学教官の講義聴講。地域の特老での診療に上級医と共に帯同など。）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ 3 ） プログラム名（ 新潟大学医歯学総合病院総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（ 新潟県立中央病院総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（ 新潟市民病院総合診療専門研修プログラム ）</p>

総合診療専門研修Ⅰを行う施設ごとの詳細

研修施設名	津南町立津南病院		
診療科名	（ 内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	□診療所 ■病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ 45 ）床 診療科病床数（ 45 ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（6～12 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ )		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ )		
常勤指導医氏名1	林 裕作	指導医登録番号	（ )
常勤指導医氏名2	佐野 浩斎	指導医登録番号	（ )
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ )
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど			
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事			
■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
<b>施設要件</b>			

<p>後期高齢者診療</p> <p>■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている</p> <p>学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）</p> <p>■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている</p> <p>□学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する</p> <p>□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する</p> <p>具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（ ）</p> <p>□学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない</p> <p>経験を補完できない理由（ ）</p> <p>学童期以下の患者の診療を経験するための工夫</p> <p>（ ）</p>
<p>■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。</p> <p>具体的な体制と方略（津南及び長野県栄村地域の唯一の病院のため、時間外も救急外来担当看護師・日当直医が相談・診療にあたり、地域ニーズに 24 時間対応している。）</p>
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。</p> <p>具体的な体制と方略（津南及び長野県栄村地域の唯一の病院のため、在宅療養をする無医地区や障害者や緩和ケアなどを把握し、継続的な診療を行っている。）</p>
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。</p> <p>具体的な体制と方略（津南及び長野県栄村地域の唯一の病院のため、在宅療養をする無医地区や障害者や緩和ケアなどを把握し、加えて学校での禁煙教育など地域健康啓発活動を行っている。）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。</p> <p>具体的な体制と方略（津南及び長野県栄村地域の唯一の病院のため、在宅療養をする無医地区や障害者や緩和ケアなどを把握し、地域の介護・福祉施設と連携契約を結び診療している。）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。</p> <p>具体的な状況（津南及び長野県栄村地域の唯一の病院のため、在宅療養をする無医地区や障害者や緩和ケアなどを把握し、家族構成も把握した医療・ケアを実践している。）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。</p> <p>具体的な内容と方法（津南及び長野県栄村地域の唯一の病院のため、学校や住民向けに禁煙指導を広く行い、検診受診勧奨や自殺予防や健康教育など保健指導を行っている。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。</p> <p>それぞれの概ねの頻度（訪問診療を行うとともに、急変時の受入を 24 時間体制でとっている。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 2,412 名以上／月</p> <p>□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p> <p>具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■のべ訪問診療数 20 件以上／月</p> <p>□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p> <p>具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会</p> <p>毎水曜；症例検討、月 1 回放射線カンファレンス、随時；多職種での退院カンファレンス</p> <p>他の施設で行う教育・研修機会</p> <p>月 1 回；十日町市中魚沼郡医師会関連研究会参加</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ 2 ）</p> <p>プログラム名（新潟大学臨床研修病院群）</p> <p>プログラム名（東京慈恵会医科大学附属病院臨床研修一般プログラム）</p> <p>プログラム名（ ）</p>

## 総合診療専門研修Ⅱ

## 総合診療専門研修Ⅱの施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
15	1010181	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	新潟県立十日町病院	<input checked="" type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携

## 総合診療専門研修Ⅱを行う施設ごとの詳細

研修施設名	新潟県立十日町病院		
診療科名	( 内科 ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 ( 275 ) 床 診療科病床数 ( 72 ) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	( 6-12 ) カ月		
常勤指導医の有無	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ( )		
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ( )		
常勤指導医氏名 1	齋藤 悠	指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 2	吉嶺 文俊	指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 3	堀 好寿	指導医登録番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<b>研修の内容</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
<b>施設要件</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する <input type="checkbox"/> 救急医療を提供している			
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (70 歳以上患者の病床占有率 70%以上、連携室機能を充実させて対応、リハ・口腔ケアカフェなど支援体制あり。平成 26 年 8 月から地域包括ケア病棟設置、新病院には回復期リハ病棟併設予定。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (指導医と共に病棟カフェに参加、MSW・看護師を含む連携室と協働、緩和・NST・褥瘡・感染などのカンファレンスに参加しチーム医療を学習する。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (常勤医 26 名前後のコンパ外な医局体制、システムに捉われない相談制度、リハ配置。新潟大学とテレビカンファレンスシステムがある。平成 27 年 6 月開院の新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院と相互連携。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (理部門ミーティングは開院日の毎朝開催され、医療以外の問題に備えたサポート体制がある。医療メディアーター研修を受けたスタッフのサポートや倫理委員会も毎月定例会を開催している。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (各職種からなる緩和ケアチームによるサポート体制がある。院長は新潟県緩和医療推進協議会会長であり、緩和ケア専門医の定期的な診療研修を月 1 回行っている。)			

<p>■退院支援と地域連携機能の提供                  具体的な体制と方略（退院支援看護師や連携室を増員、行政と医療機関などからなる地域医療連携協議会の定期開催。当院主催公開症例検討会は隔月に 66 回実施。地域連携医療情報共有システム開発、地域ケア会議参加。）</p>
<p>■在宅患者の入院時対応                  具体的な体制（開院時間は外来担当医対応、休日夜間は日当直医・内科拘束医による対応、救急受入は要請の 97%。「最後の砦」病院として他圏域からも救急搬送受入。地域包括ケア病棟も完備。）</p>
<p><b>外来診療</b>：以下の診療全てを行っていること</p> <p>■救急外来及び初診外来                  具体的な体制と方略（開院時間は外来担当医対応、休日夜間は日当直医・内科拘束医による対応、救急受入は要請の 97%。「最後の砦」病院として他圏域からも救急搬送受入。地域包括ケア病棟も完備。）</p>
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者                  具体的な体制と方略（地域医療は崩壊寸前で救急搬送や紹介や初診は断れない、全ての分野・程度の患者を診察。地域内唯一の急性期病院として、時間外診療は全ての一次・二次に対応するため、臓器・診療科の区別はない。）</p>
<p>■よくある症候と疾患                  具体的な体制と方略（高齢者が多く、心不全・肺炎・認知症・脳卒中後遺症・悪性疾患・終末期等。介護力不足の社会的入院から高エネルギー外傷の救急まで。地域性としてマムシ咬症、ツツガムシ、キノコ肺臓炎なども必発。）</p>
<p>■臨床推論・EBM                  具体的な体制と方略（テレビ会議システムを用いた毎月水曜日昼の新潟大学臨床講座、医学商業誌など約 30 雑誌、医中誌検索、up to date など、公開妻有地区症例検討会を隔月開催。）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア                  具体的な体制と方略（研修指導医と共に連携企画の看護師・リハ・自治体・医療機関・介護等関係者のカンファ開催。）</p>
<p>■診断困難患者への対応                  具体的な体制と方略（診療内容は研修指導医が相談に乗り、画像は外来の骨は毎朝整形外科医が全てチェック、CT は脳は脳外科医がそれ以外は外科医が、さらに全ての X 線は放射線科専門医が診る。魚沼基幹病院と合同カンファレンス。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200 名以上／月                  □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している                  具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20 件以上／月                  □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している                  具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会                  （毎週 1 回症例検討会を実施 ）</p> <p>他の施設で行う教育・研修機会                  （ ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ 3 ）                  プログラム名（新潟県立中央病院総合診療専門研修プログラム ）                  プログラム名（新潟大学医学総合病院総合診療専門研修プログラム ）                  プログラム名（長岡赤十字病院総合診療専門研修プログラム ）</p>

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修：内科			
研修施設名	新潟県立十日町病院	都道府県コード 15	医療機関コード 10 1018 1
領域別研修（内科）における研修期間	（ 6 ）カ月		
指導医氏名	堀 好寿		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	内科学会総合内科認定医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			

<b>施設要件</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 内科専門研修プログラムに参加している <input checked="" type="checkbox"/> 基幹施設 <input checked="" type="checkbox"/> 連携施設 <input type="checkbox"/> 特別連携施設 <input checked="" type="checkbox"/> 内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 3 ）			
プログラム名（新潟県立中央病院総合診療専門研修プログラム）			
プログラム名（新潟大学医歯学総合病院総合診療専門研修プログラム）			
プログラム名（長岡赤十字病院総合診療専門研修プログラム）			

<b>領域別研修：内科</b>			
研修施設名	新潟県立坂町病院	都道府県コード 15	医療機関コード 12 1094 8
領域別研修（内科）における研修期間	（ 6 ）カ月		
指導医氏名	近 幸吉		
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	内科学会総合専門医		
要件（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<b>研修の内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
<b>施設要件</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 内科専門研修プログラムに参加している <input type="checkbox"/> 基幹施設 <input checked="" type="checkbox"/> 連携施設 <input type="checkbox"/> 特別連携施設 <input checked="" type="checkbox"/> 内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

<b>領域別研修：内科</b>			
研修施設名	県立新発田病院	都道府県コード 15	医療機関コード 06 12003
領域別研修（内科）における研修期間	（6-12）カ月		
指導医氏名	川合 弘一		
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	総合内科専門医、消化器病専門医、肝臓専門医、消化器内視鏡専門医		
要件（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			

<b>研修の内容</b> ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する
<b>施設要件</b> ■内科専門研修プログラムに参加している ■基幹施設 ■連携施設 □特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数（ 1 ） プログラム名（新潟大学医歯学総合病院群 総合診療専門研修プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）

**領域別研修：内科**

研修施設名	新潟県立中央病院	都道府県コード 15	医療機関コード 0311804
領域別研修（内科）における研修期間	（ 6 ）カ月		
指導医氏名	永井 孝一		
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	日本内科学会・総合内科専門医 日本血液学会専門医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b> ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
<b>施設要件</b> ■科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 ■連携施設 □特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（3） プログラム名（新潟大学医歯学総合病院群総合診療研修プログラム） プログラム名（糸魚川総合診療専門研修プログラム） プログラム名（新潟県立中央病院総合診療専門研修プログラム）			

**領域別研修：小児科**

研修施設名	新潟県立十日町病院	都道府県コード 15	医療機関コード 10 1018 1
領域別研修（小児科）における研修期間	（ 3 ）カ月		
指導医氏名	金山 哲也	有する専門医資格（小児科学会専門医） <small>※小児科に関するもの</small>	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			

<b>研修の内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。（ 2 ）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400名以上/月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 2 ）			
プログラム名（新潟県立中央病院総合診療専門研修プログラム）（ ）			
プログラム名（新潟大学医歯学総合病院総合診療専門研修プログラム）（ ）			
プログラム名（ ）（ ）			

<b>領域別研修：小児科</b>			
研修施設名	新潟県立新発田病院	都道府県コード 15	医療機関コード 06 1200 3
領域別研修（小児科）における研修期間	（ 3 ）カ月		
指導医氏名	松永 雅道	有する専門医資格（小児科専門医）（ ） ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。（ 10 ）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400名以上/月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 1 ）			
プログラム名（新潟大学医歯学総合病院群 総合診療専門研修プログラム）（ ）			
プログラム名（ ）（ ）			
プログラム名（ ）（ ）			

<b>領域別研修：小児科</b>			
研修施設名	新潟県立中央病院	都道府県コード 15	医療機関コード 0311804
指導医氏名	須田 昌司	有する専門医資格 （日本小児科学会・専門医） （日本腎臓学会専門医）	専従する部署（小児科）（ ）
□研修期間	（ 3 ）カ月		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			

<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）
■（小児科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる
■（小児）科常勤医がいる。（6）名
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数（3）
プログラム名（新潟大学医歯学総合病院群総合診療研修プログラム）
プログラム名（糸魚川総合診療専門研修プログラム）
プログラム名（新潟県立中央病院総合診療専門研修プログラム）

<b>領域別研修：小児科</b>			
研修施設名	新潟県立吉田病院	都道府県コード 15	医療機関コード 13 1075 5
領域別研修（小児科）における研修期間	（3）カ月		
指導医氏名	松野 正知	有する専門医資格（小児科学会専門医など） ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。（3）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400名以上/月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※小児科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2ページ「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。（A4で1枚程度、書式自由）文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

<b>領域別研修：救急科</b>			
研修施設名	新潟県立新発田病院	都道府県コード 15	医療機関コード 06 1200 3
指導医氏名	木下 秀則	有する専門医資格（救急科専門医）	専従する部署（救命救急センター）
□研修期間	（3）カ月		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上/年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			

他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数	( 0 )
プログラム名	( )
プログラム名	( )
プログラム名	( )

<b>領域別研修：救急科</b>			
研修施設名	新潟県立中央病院	都道府県コード 15	医療機関コード 0311804
指導医氏名	小川 理	有する専門医資格 ( 日本救急医学会専門医 ) ( 日本内科学会・総合内科専門医 ) ( 日本循環器学会専門医 )	専従する部署 ( 救急部 )
□研修期間 ( 3 ) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
□急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000 件以上/年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略 ( )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (3)			
プログラム名 (新潟大学医歯学総合病院群総合診療研修プログラム)			
プログラム名 (糸魚川総合診療専門研修プログラム)			
プログラム名 (新潟県立中央病院総合診療専門研修プログラム)			

<b>領域別研修：救急科</b>			
研修施設名	新潟大学医歯学総合病院	都道府県コード 15	医療機関コード 89 1001 1
指導医氏名	遠藤 裕	有する専門医資格 (救急専門医)	専従する部署 (救急部)
□研修期間 ( 3 ) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000 件以上/年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略 ( )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 ( 2 )			
プログラム名 ( 新潟大学医歯学総合病院総合診療専門研修プログラム )			
プログラム名 ( 下越病院総合診療専門研修 )			
プログラム名 ( )			

領域別研修：救急科			
研修施設名	新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院	都道府県コード 15	医療機関コード 24 1046 3
指導医氏名	山口 征吾	有する専門医資格 (救急専門医)	専従する部署 (地域救命救急センター)
□研修期間 ( 3 ) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
<b>診療実績</b> (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000 件以上/年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ( )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 ( )			
プログラム名 ( )			
プログラム名 ( )			
プログラム名 ( )			

## その他の領域別診療科

領域別研修： 整形外科			
研修施設名	新潟県立十日町病院	都道府県コード 15	医療機関コード 10 1080 1
指導医氏名	倉石 達也	有する専門医資格 (整形外科専門医等)	専従する部署 (整形外科)
■研修期間 ( 3-6 ) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■ (整形外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (整形外) 科常勤医がいる。 ( 3 ) 名			

領域別研修： 外科			
研修施設名	新潟県立十日町病院	都道府県コード 15	医療機関コード 10 1080 1
指導医氏名	福成 博幸	有する専門医資格 (外科専門医等)	専従する部署 (外科)
■研修期間 ( 3-6 ) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■ (外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (外) 科常勤医がいる。 ( 7 ) 名			

領域別研修：産婦人科			
研修施設名	新潟県立十日町病院	都道府県コード15	医療機関コード10 1080 1
指導医氏名	小菅 直人	有する専門医資格（産科専門医等）	専従する部署（産婦人科）
■研修期間（3-6）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■（産婦人科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（産婦人科）科常勤医がいる。（1）名			

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

その他の研修施設（例：臨床疫学などの社会医学の研修や保健・介護・福祉関連の施設等での研修）

領域・分野：臨床研究			
研修施設名	新潟大学医歯学総合病院医科総合診療部/新潟大学医学部地域医療学講座		
指導にあたる医師名 （※指導責任者）	①長谷川隆志（※） ②馬場晃弘 ③小泉健 ④井口清太郎	①呼吸器専門医、内科指導医 ②プライマリケア認定医 ③内科認定医 ④総合内科専門医	①医科総合診療部 ②医科総合診療部 ③新潟地域医療学講座 ④新潟地域医療学講座
□研修期間（1-3）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している			
■総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：ソーシャルキャピタルなどの観点から地域を診て、疾患との関連や地域住民の健康・予防医学の面からのアプローチを学ぶことができる）			
<b>指導体制</b>			
■研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる			
■研修終了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる			